



◎愛媛県生物多様性センター
愛媛県内の石区岩洞で確認した
ラカンツノカニムシ。
細長い触肢がよく目立つ。

洞窟内の石の下には稀にカニムシと呼ばれる体長5mmほどの小さなサソリのような生き物が観察できます。拡大して観察するとサソリのように毒針のある尾はありませんが、そのほかは大変良く似ていて、触肢と呼ばれる大きなハサミを携え4対の歩脚があり、肉食性の生き物なので、この触肢で小さな獲物を捕まえて食べます。面白いことにこのハサミの先端には小さな穴が開いていて、そこから毒液を注入して獲物を弱らせることができる仕組みになっています。多くのカニムシは落ち葉の下や土の中で生息していますが、ヤドリカニムシの仲間には自分より

安田昂平・佐藤英文、2021、カニムシによるカニムシ・カニムシの国内初確認、第11回日本甲虫学会、オンライン、2021年11月。

(研究員 原 有祐)



アリに襲われているムラサキツバメの幼虫。いいえ、襲われているわけではなく、アリの目印にして探してみてもこの幼虫を簡単に発見できます。これは、幼虫が体から蜜を出してアリに与え、アリに守ってもらっているからです。守ってくれるのはアリのせいで見つけられるなんて、良いのやらの悪いのやらわかりませんね。

(主任技師 松岡 慧蔵)

センターでは主にアリ類の調査で、誘引餌を用いたバイトトラップによるモニタリング調査を行っています。

(主任研究員 村上 裕)

ヒアリ類モニタリング調査

新居浜市とセンターによる合同調査を2回/年の頻度で国際便を有する港湾コンテナヤードで実施しています。誘引餌はヒアリ類が誘引されやすい油菓子を用いています。

アルゼンチンアリモニタリング調査

2023年に県内初確認された新居浜市の種籍部分を中心にモニタリング調査を実施しています。2025年度は2回/月の頻度で実施し、詳細なデータを収集しています。誘引餌はアルゼンチンアリが誘引されやすい糖蜜類を用いています。



バイトトラップ

編集・発行

愛媛県立衛生環境研究所 生物多様性センター

〒791-0211 愛媛県東温市見奈良1545番地4

TEL : 089-948-9678 FAX : 089-948-9677

URL : <https://www.pref.ehime.jp/h25115/biodiversity>

Mail : seibutsu-ent@pref.ehime.lg.jp

(編集後記)

近年、何十年に一度といわれる異常気象が多発し、なにが異常かわからなくなっています。生物は気象に影響されることが多く、その動向を注意深く観察することが重要です。

えがお 愛顔の生きもの 100年レター

愛媛県生物多様性
ニューズレター

vol.17
(令和7年7月)

ちよっと危険な希少植物 ハマビシ (愛媛県特定希少野生動植物)

主に海岸砂地に生育する1年草または越年草で、茎は根元から地際に枝分かれして分散して広がります。茎や葉柄に毛があり、葉は偶数羽状複葉で、小葉が6~7対ある長葉と3~5対ある短葉とがあります。小葉は長さ1~2cmの長楕円形です。夏に短葉の付け根に黄色の5弁花をつけます。果実は直径約1cmで5部屋に分かれており、各部屋に2本のトグ、合計10本のトグがあります。トグは固く刺さることがあり危険です。熟すと各部屋が分離します。ヒ

(主任技師 松岡 慧蔵)



展開状況



花



果実

- 【アルバム】希少野生動植物や特定外来生物の現地研修会を開催しました
- 【調査】県民参加型の生物相調査事業について
- 【特定外来生物】特定外来生物と誤認されやすい生き物②ームナグロにメグモー
- 【愛媛のいきもの紹介】モノクロの芸術 自然のデザイナーーはぐい
- 【コラム】暗闇への誘い 尾がないサソリ?ーラカンツノカニムシー
- 【調査】小さな用心棒 アリに守られるチヨウの幼虫
- 【調査】バイトトラップを用いた調査

CONTENTS

希少野生動植物や特定外来生物の
現地研修会を開催しました

生物多様性センターでは、条例で指定した特定希少野生動植物や、近年問題となっている特定外来生物などを深く学ぶことを目的に現地研修会を開催しました。
(主任研究員 村上 裕)

令和6年度に開催した主な現地研修会

月 日	場 所	主な内容	参加人数
5月18日	西 条 市	オオキンケイギク対策研修会	18名
5月19日	東 温 市	野鳥観察会	21名
5月26日	東 温 市	コケ類観察会	8名
7月30日	東 温 市	ヤマノ刺繍法研修会	7名
9月11日	西 条 市	ナガエツリノグイトウ研修会	35名
9月15日	岩 手 県	岩松川南類調査方法研修会	8名
9月30日	宇和島市	外来アリ類研修会	10名
10月14日	重 信 川	水生昆虫研修会	6名
10月21日	新居浜市	セアカカゴケグモ研修会	12名



オオキンケイギク対策研修会 (西条市)

令和7年度の現地研修会について

令和7年度の現地研修会はNPO法人西条自然学校に委託して実施します。開催時期等は同法人HPで案内予定です。

県民参加型の生物相調査事業について

事業の一環で、多様な生物が生息する県内の自然公園のうち、特に気候変動等の影響を受けやすい地域を選定して動植物の生息状況について集中的に調査を実施し、生物相を明らかにします。
(主任研究員 村上 裕)



令和7年度対象地域…
四国カルスト県立自然公園

令和6年度調査結果(概要) (Ⅲ) 嶺南県立自然公園

哺乳類	ヤマネ、ヒメネズミ、キツネ、コウモリ、コテンコウモリ、モモコウモリを確認
鳥類	47種確認 特記事項 クマタカ、サシバ、オオムシクシ等6種の絶滅危惧種を確認
昆虫類	ハナダマ32種、セミ科10種確認 特記事項 冷涼地を好みコノシダウマ、ウンセンシユムシ、アカエゾゼミ、シコククロノガヤサムシ等を確認
爬虫両生類	12種確認 125科728種確認
高等植物	ミヤコトリノツグシ、ノボロシ、ノボロシ等の湿地性植物、ヒメスギラン、ミヤコトリノツグシ等の高山性植物を含めた31種の絶滅危惧種を確認
コケ植物	53科149種確認 特記事項 オオミツヤコケの群生を確認
陸産貝類	9科22種確認 特記事項 タネキセル、イヨキセル、ホソキセル等7種の絶滅危惧種を確認

ムナグロヒメグモ

2024年は、東予地域を中心に特定外来生物セアカカゴケグモの報告件数が例年と比較して非常に多くなりました。セアカカゴケグモはヒメグモ科のクモの多くが有する丸い腹部が特徴の一つですが、県内にはセアカカゴケグモ以外の丸い腹部を持つヒメグモ科のクモも多く生息しています。その中でも、腹部に赤い模様があるムナグロヒメグモは丸い腹部と相まって、セアカカゴケグモと誤認されることが多いクモです。本種はコケグモ類共通の特徴である腹部裏面の砂時計状の模様を有していないことで判別可能です。

ムナグロヒメグモは一見してセアカカゴケグモと間違っ



ムナグロヒメグモ (四国中央市) 2024年5月撮影

モノクロの芸術 自然のデザイナーはすごい

蝶と蛾は同じ仲間ですが、蝶はきれいで蛾は汚いといったイメージを持つ人が多いようです。確かに昼を中心に活動する蝶は色鮮やかなものが多く、夜を中心に活動する蛾は地味なものが多い傾向にあります。しかし、色もですが模様は多彩でそれぞれに個性があり甲乙つけがたいのも事実です。

今回は、モノクロで独特の模様を持った蝶と蛾を紹介いたします。自然が作るデザインのすばらしさに驚かされます。
(主任技師 松岡 基憲)

スミナガシ



雑木林の周辺に生息し、樹液や果実等に集まります。名前は、墨汁を水面に垂らして模様を作る「墨流し」からつけられました。青緑色を帯びた黒地に白い線や点が絶妙に広がっていて、派手さはないものの清楚な模様と風流な名前が人気です。

イボタガ



早春に出現する大型の蛾で、幼虫がイボタノキの葉を食べるためイボタガと名付けられました。羽を広げると約10cmと大きいので、蛾の苦手な人には抵抗があるかもしれません。しかし、じっくり観察すると、大きな目玉模様に整然と並んだ波上の線のバランスが絶妙で、派手さはありませんが芸術品とっていてもいいほどの美しさです。

オオトモエ



前翅に「勾玉」図形を旋回状に配置した巴(とろろ)模様があるところから、トモエガと呼ばれる蛾の中でも大きい種類なのでオオトモエの名が付いています。翅を開くと10cm近くもあります。年に2〜3回、5月から8月にかけて出現します。巴模様が目立ちますが、よく見ると、翅の上に破れた羽があるように見えます。しかも、上の翅と下の翅がくっついていないように、立体的に見えるように影がついています。もちろん翅は1枚ですが、2枚あるかのように見える絶妙な模様です。